

日本カトリック正義と平和協議会改憲対策部会 主催



北東アジアの平和のためのシンポジウム

韓国の人々と手を 取り合うために

戦後最悪と言われる今日の日韓関係。韓国から日本はどんな風に見えるのか。わたしたち日本人の韓国を見るまなざしは歪んでないか。韓国と日本がもう一度手を取り合うために、教会は、市民社会は、何ができるのか。

2019年10月13日（日）13:30 開場13:00、終了16:30頃

イエズス会岐部ホール 4階404室

（JR中央線・東京メトロ 四ツ谷駅下車3分 聖イグナチオ教会敷地内）

パネリスト

李泳采（恵泉女学園大学教員）

3・1独立運動100年に考える日韓関係の行方ー「敵」と煽っているのは誰なのか

加藤直樹（ノンフィクション作家）

韓国を見えなくさせているもの、日本を見えなくさせているもの

Sr.古屋敷一葉（援助修道会会員）

体験から見る、平和の使徒としての日韓カトリック教会

ディスカッションと質疑応答あり

登壇者紹介

李 泳采 (い よんちえ)

韓国生まれ。恵泉女学園大学教員。98年来日、専門は日韓・日朝関係。日韓の市民団体の交流のコーディネーター。韓国語、韓国映画や映像を通して現代を語る市民講座の講師を務める。著書に『韓流がつたえる現代韓国』（梨の木舎 2010）、『アイリスでわかる朝鮮半島の危機』（朝日新聞社 2010）、『なるほど！これが韓国か-名言・流行語・造語で知る現代史』（朝日新聞社 2006）、『犠牲の死を問う』（梨の木舎 2013）、『アングリーヤングボーターズ-韓国若者たちの戦略的な選択』（梨の木舎 2016年）、『いま、朝鮮半島は何を問いかけるのか-民衆の平和と市民の役割・責任』（彩流社 2019) など多数。



加藤直樹 (かとうなおき)

ノンフィクション作家。1967年、東京生まれ。出版社勤務を経てフリーランスに。著書に『九月、東京の路上で 1923年関東大震災ジェノサイドの残響』（ころから 2014）、『謀叛の児 宮崎滔天の「世界革命」』（河出書房新社 2017）、『トリック 「朝鮮人虐殺」をなかったことにしたい人たち』（ころから 2019）。翻訳にチェ・ギョソク『沸点 ソウル・オン・ザ・ストリート』（ころから 2016) がある。

Sr.古屋敷一葉 (ふるやしきかずよ)

1971年、広島市生まれ。現在、カトリック広島司教区平和の使徒推進本部勤務。同志社大学大学院グローバルスタディーズ研究科博士前期課程修了。修士論文「『正平協』の切り開いた道—1970年代韓国民主化闘争支援活動を通して—」（2018）。



日本カトリック正義と平和協議会

連絡先 03-5632-4444 jccjp@cbcj.catholic.jp (担当 昼間範子)